
バイオハザード2.5 ~ハイスクール・サイドストーリー~

エネミーライン

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

バイオハザード2・5 ～ハイスクール・サイドストーリー～

【Nコード】

N8101M

【作者名】

エネミーライン

【あらすじ】

語られなかった物語、語られなかった悪夢。
思い出の町へ3人で行った高校生の国見 望、立花一輝、近剛武人らが見たアンブレラ事件。

はたして、共に死の町から脱出できるのか……

ゾンビ系が好きな作者が書く、バイオハザード

初投稿の作品です。

プロローグ（前書き）

どうも、エネミーラインです。

東方とかの小説を見てたらこのサイトにたどり着きましたw

最近になってバイハをやりだし、その面白さに感動して書きちゃいました。

作者はB A K Aなので、漢字ミス、言葉の使い方等がなっております。

今回はプロローグだけです。どうぞ！

ブローグ

それはどこにもある会話……

『守です。サリーさんは居られますか？』

『守！ 元気にしてた？』

『はい。サリーさんもお元気そうでしたです。』

『で、今日はどうしたの？』

『ええ、今度皆で集まろうと思って…どうでしょうか？』

『皆つて、もしかして…』

『18年前の事件の皆です。』

『あれから18年なのね……。』

『皆も変わりましたよ。一輝も武人も…』

『私はもう老けちゃったわ。20代の時が恋しいわ…』

『まだまだ若いですよ。』

『言うようになったわね。予定は作っておくから、こっちから連絡するね。』

『はい。よろしくお願いします。では。』

そう、18年経った。

僕の大好きな町、大好きだった人達が僕の知ってるのではなくってしまっただ、あの事件。

世間ではよく言われたアンブレラ事件。

皆というのはラクーンシティの数少ない生存者の人達だ。

「さて、続きをしますか。」

僕は、いつもあの町であつた事をノートに書いている。
あの時、あの人が言ったことを信じて書き続けた。

この話は、事件当日に町にいた僕の話。

僕が見た、悪夢の話。

プロローグ（後書き）

今回は事件から18年後をプロローグとしました。

不定期で更新するので、ご了承ください。

次は事件前日から、発生を書きたいと思います。

最後に…

力量のない小説書いてすいませんでした<（――）>

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n8101m/>

バイオハザード2.5 ～ハイスクール・サイドストーリー～

2010年10月12日04時07分発行